



肩を張らずに明るく

「はるの会」



△「やすらぎの家」での笑顔

「あんたいくつ？」

「どこから来たかい？」

おばあちゃんたちとのこんな会話から一日が始まります。月に2度の高齢者介護ホーム「やすらぎの家」でのお手伝い。

10人ほどのお年寄りとお話しをしたり、歌ったり、亡くなった母を思い出させられたりするひとときです。

6人のお友達と何かをしようと始めてから半年、まだまだよちよち歩きです。毎月予定を話し合っ訪問の調整をしています。決まって申し出てくれるのが身障者の子どもさんを持つSさんです。

私たちは福祉などと難しく考えず、普段の生活の延長として時間を融通し合い、長続きのする肩の張らない会にしようと思っています。

昨年学んだ「老人介護講座」や母をみとった経験などをこの活動の中に生かし、さらに輪を広げていこうと、みんなががんばっています。

問い合わせ 保健婦人センター内
ボランティアセンター ☎64-7100

今、野菜の味にこだわっている。
大根も、にんじんも、ほうれん草も、それぞれの持ち味を、うまく引き出してやるのが主婦たる役目。
ウッ。これは、子育てにも、亭主の操縦にも応用できるんじゃない？
おおらかに、かつ鋭く、日曜日には主婦しましょう。

こちら編集室

富士の今と昔 ⑤7



道の南側に家が建ったのは戦後(昭和20年以降)です

勝次さんのお話。「鷹岡の町ができて、ことしでちょうど百年になるんだよ。この町は明治二十二年に製紙会社ができから発展したんだ。新道(大宮街道)もつぐられ、その南側には原料になる材木が山と積まれていたね。子どものころは「するが座」という劇場やカフェー、料理屋なんか十何軒もあって随分にぎやかだったなあ」



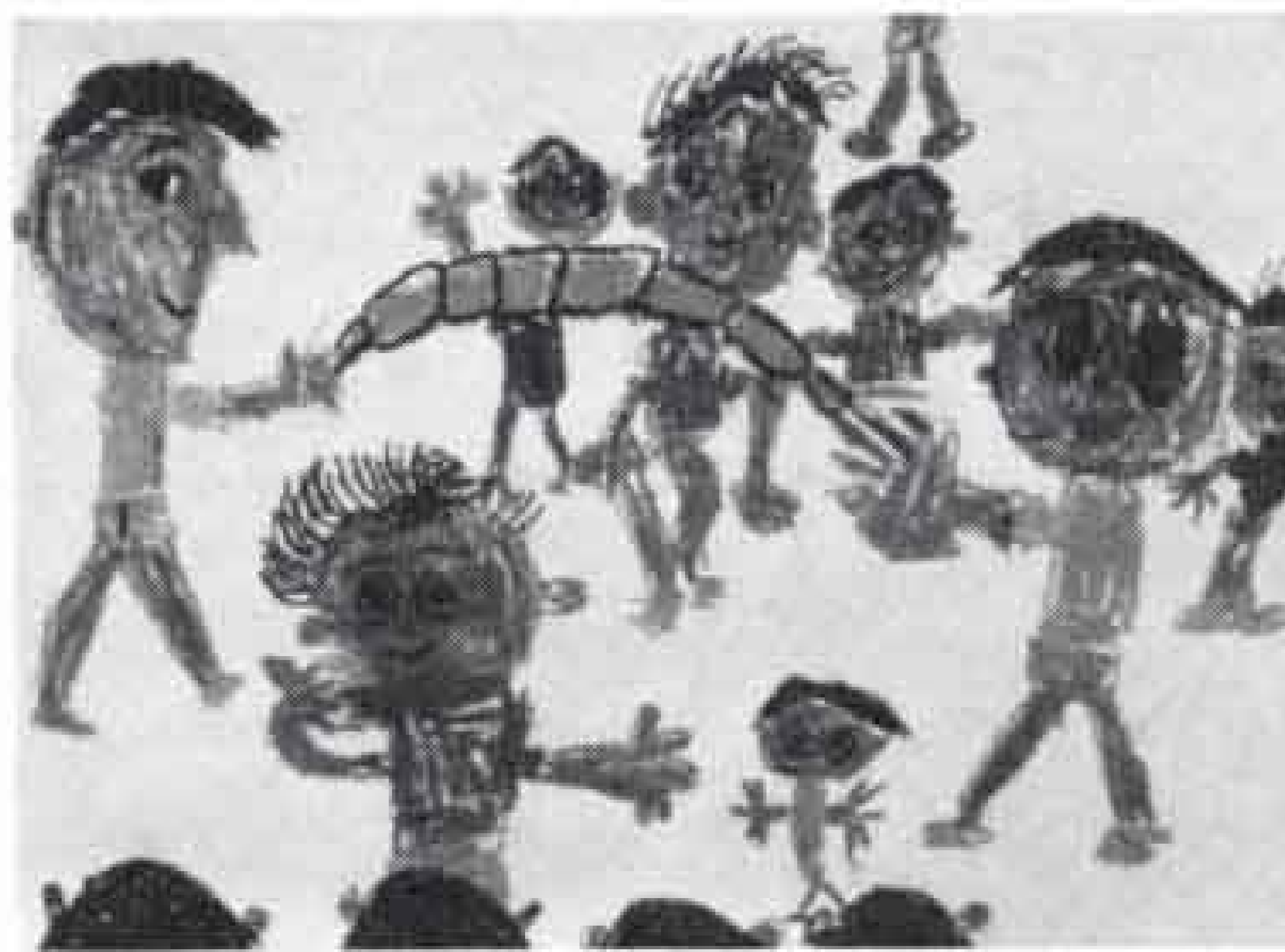
明治三十八年の鷹岡本町です。地元の商店街にお住まいの熊王



音 当時(明治中期)のお葬式の行列です



富士第一小学校、一年生のお友達とても楽しくてゆかいです。
なわとび会や、ずこうのじかんも元気いっぱいです。



ながなわしゅうかいで、つづけていくつとべるかきょうそうしました。
七くみは百八十四かいで三いだったよ。みんなでれんしゅうして、がんばったんだ。



さのてつや



きりぎりすのせなかにのって、ほうけんりよこにいきたいんだよ。
ピョンととぶとほくもたかいところへいけるし、いろんな虫と、友だちになれるものね。



よしざきしょうへい